

令和6年度 第1回 平塚市美術館協議会 会議録

- 開催日時 令和6年8月27日（火） 14時00分～16時00分
- 開催場所 平塚市美術館 研修室
- 出席者 委 員 吉村維元、靱山昌夫、獅々倉聡、木村一彦、勢山真理子、鈴木憲子、高橋孝祥（敬称略）
- 事務局 石川社会教育部長、加藤特別館長、戸塚館長、勝山館長代理兼学芸担当長、江口学芸員、家田学芸員、安部学芸員、鈴木学芸員、高倉館長代理兼管理担当長、平本主査

■傍聴者 なし

■会議の概要

- 1 開会
- 2 社会教育部長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 職員紹介
- 5 「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展〈童堂賛歌〉」、「つながるコレクション＋新収蔵品展」観覧
- 6 議題
 - （1）令和6年度事業について
○作品 ○展覧会 ○教育普及 ○その他の事業 ○施設利用者等の統計
 - （2）今後のスケジュールについて
 - （3）その他
- 7 閉会

■社会教育部長あいさつ

委員会開催にあたり、社会教育部長から挨拶があった。

■議題及び質疑

- （1）令和6年度事業について（これまでの事業報告及び今後の事業予定）

今年度これまでの展覧会事業、教育普及事業について、内容・会期・関連事業のほか、施設利用者の統計と下半期の展覧会事業の内容・会期・関連事業等、教育普及事業の主なワークショップの内容等を事務局から説明。
- （2）今後のスケジュールについて
協議会委員の任期中の会議開催予定について説明した。
- （3）その他
当館大規模改修に向けた基本設計業務を実施していることを説明した。

（質疑）

- （1）令和6年度事業について

委 員 現在開催中の「ザ・キャビンカンパニー展」について「まちなか展示」に関する説明があった。昨

年は1か所で実施されたが今回は2か所増えて3か所で展示している。これについて、どんなことが大変だったか。また、拡大の狙いは何か。

事務局 まず拡大については、美術館の知名度を如何に上げていくのかということ、それと展覧会の広報、更に「美術館は堅苦しいところではない。」ということを知っていただくという狙いがある。また、今後当館の大規模改修に向けた設計作業をしていることもあり、近い将来、一時的に美術館での展示等の作業が制限される場合があるかもしれない。そういった場合に、今回のような「まちなか展示」が一つのパイロットケースとなり、今後の検討の材料になるのではないかと考えている。

大変だったことについては、多くの方々が集まる場所に展示できるよういくつかの施設と交渉したが断られた施設もあること、展示に当たっては職員が作品を運び、展示を行うなど、かなりの時間を要している。

委員 「まちなか展示」を拝見したが、今回の展覧会は絵本作家を取り上げているため、図書館や書店を会場とし、本との馴染みが良いという印象を受けた。こういったアウトリーチの取り組みは今後も継続していくのか。

事務局 今回、「本」ということで書店等の御協力をいただいたが、作品によっては盗難に対する配慮をしなければならない場合もあり、今後も拡大継続するかということについては、業務量との兼ね合い、作家の了解など、いくつかの条件が合わないと実施できないと考えているため、展覧会の内容などを勘案して柔軟に考えていく。

委員 アートを鑑賞することによって癒しや安らぎ、リラックス感を得られるといった効果があると思う。平塚市の施設の中には公立の病院もある。このような場所で「まちなか展示」ができれば、長期に入院しているような患者さんに安らぎを感じていただくような効果も期待できるのではないかと思うが、いかがか。

事務局 基本的には対象として考えられると思う。また、病院によっては院内学級のような催しをしているところもあり、これに対応するプログラムを考えることも可能だとは思う。しかしながら、先の新型コロナウイルス感染症流行の際の防疫体制等を考えると、施設側との綿密な打ち合わせが必要であると思う。実現に向けてはオンラインの活用など総合的に勘案すべきものと捉えている。

病院側からアプローチしていただければ実現に向けた近道となるのではないかと思う。

委員 小学校では対話の事業で毎年お世話になっている。最初はなかなか発言できない子どものちょっとした発言についてもボランティアの方々が「すごくいいところに気付くね。」などと上手く取り上げてくれる。それを続けることによって、子どもたちの自信がついてくる。タブレットを使つての学習が増えている昨今の状況なので、声に出して自分の気持ちを言う機会が少なくなっている中で大変ありがたい事業であると思っている。教職員としても、ボランティアの指導の仕方が勉強となっている部分がある。是非、今後も継続していただきたい。また、教育研究会の図画工作部でも美術館事業の宣伝をしたいと思う。

事務局 対話による美術鑑賞については、教育普及事業の大きな柱になっている。ボランティアの活躍についても我々の大きな力となっており、継続して実施してまいりたい。

委員 先程他の委員から話のあった病院との連携事業については、抗体検査の実施とかいろいろと制約があり、その費用負担を自治体が持つのか、個人が持つのかといった課題もあり、ハードルは非常に高いものと思う。

また、先程の「まちなか展示」について、「美術館の知名度を上げる」という狙いがあるとの説明があったが、「美術館の知名度」とはどのように計測されているか

事務局 具体的な数字はないが、企画展ごとに実施するアンケートの項目に「何度目の来館か」という項目

があり、展覧会の内容によってその割合が変わってくる。「初めて来た」という方が増えていくことが指標につながるのではないかと捉えている。

現在開催している「ザ・キャビンカンパニー展」では「初めて来た」という方の割合が多くなっている。そのようなところから手ごたえを感じている。

委員 先程の説明の中で作品の収蔵管理にコストがかかっているとの説明があった。美術館の事業として収蔵管理について、もう少し具体的な内容を紀要等の資料に掲載してはいかがか。

事務局 作品の収蔵管理については、作品の寄託や貸出、修復・野外彫刻のメンテナンス、害虫検査の実施等様々な業務を行っている。今年度第2回目の協議会の際に、もう少し具体的な内容を御説明できるようにしたい。

委員 この後開催される蒔谷虹児展について、開催期間が44日で短いと感じる。この開催期間は、作品の材質を考慮したものか、あるいは借用料的なものなのか。

事務局 新発田市の記念館から無償でお借りすることになっているが、紙の作品で材質が脆弱であること、あまりたくさん光をあてることができないという観点からの開催日数となっている。展示替えをしなくて済むことからこの日数とした部分もある。

委員 中勘助の展示について、「平塚居住100年」というサブタイトルは、なかなか思いつかないと思うが、これは担当学芸員の発案によるものか。

事務局 市内に「中勘助の会」という市民グループがあり、その会との協働で実施する事業である。

委員 教育プログラムの中にある「教員向け染色実技講座」について、「小・中・高・特別支援学校の教職員」を対象としているということは、自校に戻って活用してほしいという意図か。

事務局 そのとおり。具体的な内容としては、時間が限られる中で染色の作家さんにステンシルの講座を2時間で実施していただいたもの。

委員 ボランティア育成のための研修の中で「アートカード研修」を行っているが、先程の説明の中でアートカードの貸出はなかったと聞いた。学校で教員の補助教材として使うアートカードが最近デジタル化し、一人一台タブレットを使用して作品を身近に確認できるようになってきているが、平塚市美術館ではアートカードのデジタル化については検討しているか。

事務局 現在のアートカードは確か2012年に作成しており、新しいものをつくろうという考えはある。その検討の中で考えていきたい。

(2) 今後のスケジュールについて

特になし

(3) その他

委員 平塚駅のホームから見える位置にあり、まちづくり財団が管理している看板の中に平塚市美術館の看板があるが、かなり色あせている。また、美術館の正面入り口にあるピンク色の看板や市役所の東側の通りを北上したところにあるピンク色の美術館の看板についてもかなり色褪せており、まだ何年か先になる大規模改修を待たずに改修してはいかがか。

事務局 御指摘の看板については、更に1か所平塚駅から市役所に向かい歩道橋の手前にも1か所あり、これも色褪せていることは認識している。我々も改修したいと思っているが、建設されてから33年を経過している当館の建物や設備もかなり老朽化しており、お客様の御不便にならないよう優先順位を考えながら改修している状況である。今後、予算や優先度を考慮しながら改修に向けて検討してまいりたい。

■閉会

特別館長より閉会を告げた。

次回は令和 7 年 3 月に開催予定。